

発行所 日本キリスト教女子青年会
〒102-0074
東京都千代田区九段南4-8-8
Tel. 03-3264-0661
E-mail. office-japan@ywca.or.jp
編集発行人 青木恵子
振替 00170-7-23723 (毎月1日発行)
定価1部 150円
年間購読料2,200円(送料込)
www.ywca.or.jp

主題
「平和を実現する人々は幸いである」マタイによる福音書5章9節
基本方針
イエス・キリストに学び、共に生きる世界を実現する
組織の課題
若い会員を増やし、意志決定機関に25%以上の若い会員を入れる
運動の課題
1.憲法改悪を阻止し、第9条を世界平和の礎にする
2.「核」廃絶と、自然エネルギー活用を推進する
3.子どもの権利を守る
4.女性への暴力の問題に取り組む

YWCA 8 AUG. 2006

東北アジアの平和のために

池明観



ち みょんくわん

1924年平安北道生まれ。朴軍事独裁政権化、民主化運動の知的文化人を結集。身の危険から米国留学を経て、1972年来日。1993年帰国まで東京女子大学教授。専門は近代思想史。雑誌「世界」(岩波書店)に1973年から1988年までの15年間、「T・K生」の筆名で「韓国からの通信」を掲載、韓国民衆運動に多大な貢献をした。帰国後は、日韓共同歴史研究委員会韓国側座長、韓国文化交流政策諮問委員長、翰林大学日本学研究所所長等の要職を歴任、日韓交流の礎を築いた。03年5月までKBS(韓国放送公社)理事長。

昨日7月5日、北朝鮮が発射した7発のミサイルは世界を騒然とした雲間気の中にまきこむと思われ。しかもその国は核兵器を所有しているとなれば世界を脅迫しているかのようである。

1947年3月、私は当時の南北分断線、いわゆる38度線を越えて南、韓国に南下してきた。米軍占領下にあった南には北とは違つて民主主義が花咲いているだつと思つて北へ。

しかし現実はずいぶん生易しいものではなかつた。そのため逃避的な心情でキルケゴールの哲学にふけつたことを思い出さざるをえない。その中で1950年には朝鮮戦争を迎えて最前線に立つた。

このような経験から、私の心の中に東北アジアの平和への願いが芽生えたといえるであらう。これに関連して二つの事柄に言及することは意味のあることかもしれない。私は1998年から数年間、日韓の大衆文化の交流に関する委員会に関係してきた。また2003年には北朝鮮を訪問する機会に恵まれた。

いま日韓関係は政治的には冷えて切つていといわれる。しかし日本における「韓流ブーム」と呼ばれる文化交流には、過去に比べると目を見張るべきものがある。すでに日韓の間では1日1万人を超える人々の往来がある。そこには政治を超える市民の時代がきていて、といえるかもしれない。これは日韓の間だけのことでない。日・中・韓ともにそのような時代を切り開きつつある。あまり政治に一喜一憂してはなるまい。

もう一つ、北朝鮮を訪ねたことにも少し触れてみたい。それは1週間、ホテルと会議場を往復する日々で、北朝鮮の市民一人とも接触したり自由な会話を交わすことのないものであった。遠くに眺める人々と景色は悲しく写るだけであった。これが半世紀を超えて目にした故郷であるのかと涙した。このような状況の中で何をなすべきか、何ができるかを考えるをえなかつた。

東北アジアの平和のために何をなすべきか。これは私個人のはしたない考えに過ぎない。何よりもそこに住む一人ひとりの生命について考えてのことである。そしてして置くこと。まず食べ生きてる原初的な生への配慮。このやさしさが今いかに世界的に必要なことであらうか。

年老いたせいであるかもしれない。日韓関係における絆糸曲折にあまりにも悩まされてきたのかも知れない。政治は短く歴史は長いと思うのである。政治に翻弄されてはならない。民主的政体であるならば、一人の政治家の統治期間は長くても4〜5年に過ぎないではないか。歴史の単位を100年以上と考える歴史家の見方が市民的良識のためにもっと動員されなければならない。

アクションアラート パレスチナYWCA

世界YWCA、およびパレスチナYWCAからの緊急行動の呼びかけ (2006年7月7日)

2006年6月25日以来10日以上の間、75万人のパレスチナ人が生活に必要な不可欠な水・電気を使うことができない生活を強いられています。1人のイスラエル兵の拉致の報復としてイスラエル軍が行ったミサイル攻撃によって、ガザ地区唯一の発電所と3つの橋を破壊したためです。その結果、ガザ地区のすべての住民が世界中から孤立しているのです。これはガザ地区の住民への集団処罰に値し、国際法に違反する行為です。電力はガザ地区の上下水処理や医療に不可欠なものです。

戦争に関する法律は「一般市民が生存のために欠かすことのできないもの」への攻撃を禁止しています。イスラエル軍によるガザの発電所の破壊は生活基盤を保護する義務に違反しています。イスラエル軍は2005年に撤退し、イスラエル人入植地を撤去しましたが、ガザを占領し続け、ガザの国境・海域・制空権・税収入・設備・国際経済すべてを握っています。それなら少なくとも、イスラエルはガザの住民の基本的な福祉を守る責任があります。特に、イスラエルがガザ地区に課した制限によって影響を受けている健康・教育・人道上のニーズに対して責任があります。

イスラエルはパレスチナ人の都市・村・難民キャンプまでも侵略し、適切な裁判手続きもなしにパレスチナの市民を投獄しています。このような暴力で、罪のない市民、特に女性や子どもは生きるために必要な基本的なニーズを得られず、日々の暴力によるトラウマで苦しんでいます。6月25日以来40人の住民が殺され、175人が負傷し、そのうち45人は子どもでした。私たちは、平和・正義・安全を決してもたらすことのないすべての暴力行為を強く非難します。

パレスチナYWCAは世界中のすべてのYWCAに次の行動を呼びかけます。

- 1. 国際法を遵守し、ガザ地区の住民とガザ地区の生活基盤への攻撃を直ちにやめるよう国際社会に求めること
2. イスラエルが無差別集団処罰をやめること、ジュネーブ条約に従うことを要求すること
3. 不正に拘束されている9600人(うち400人は18歳以下の子ども)にもとめる政治犯を解放し、国連子どもの権利条約に従うことをイスラエルに要求すること
4. 違法に拉致され投獄されている、民主的な選挙で選ばれた64人のパレスチナ自治政府の大臣とパレスチナ自治評議会のメンバーを直ちに釈放するよう要求すること
5. イスラエル兵を安全に家族のもとに帰還させるよう要求すること
6. 聖地の公正で持続可能な平和の実現に向けて、国際社会、特にジュネーブ条約の調印国が、イスラエル政府とパレスチナ自治政府間の対話を促すよう求めること
7. 2003年ブリスベンでの世界YWCA総会で採択された「中東地域の自由と尊厳に関する決議」を実行すること



自善のサインに応じる神田香織さん

東京 YWCA 武蔵野センター

チエルノブイリの祈り

東京YWCA武蔵野センターの「暮らしを考える会」では、長年、自分たちの身の回りのことから生活を問い直すようと勉強を続けてきたが、その中でもエネルギー問題・原発問題は大きな課題のひとつである。

昨年NCC主催のチエルノブイリスタディーツアーで、講師の神田香織さんと一緒にしたことから、チエルノブイリ原発事故から20年目の今を地域の方と共に考えたいと、6月24日に「チエルノブイリの祈り」と題

した催しを武蔵野公堂堂で行った。前半には、今年の3月にも現地を訪れたフォトジャーナリストの広河隆一さんとチエルノブイリ原発と周辺のスライドを映しながら話をされた。広河さんは原発事故のため消えてしまった村々を今までに45カ所確認した。村々をそれぞれ100以上撮影した村があり、その村の人たちが強制移住した地域では今でもがん患者が多発しているという。事故の死者として公式に発表されているのは64人のみ。どんな消火剤によって鎮火したのかさえ公表されず、放射能を完全に防ぐことができる防御

服などといった話も、次に事故が起きたときに誰がその処理に当たるのかを考えると恐ろしくある。自衛隊は放射能の危険があるところには派遣されないという話も驚きだった。

神田香織さんの立体講話はスベトラナーアレクシエービッチの「チエルノブイリの祈り」という本の中から、真っ先に消火活動に飛び込んで被曝した消防士とその妻の話を照明と音響を加えて講話に書き起こしたものを。事故の後、献身的に看病を続けて、刻一刻変わり続けていく夫を看取った消防士の妻は、身ごもったおなかの子どもまでも失ってしまった。その妻が生き

ジュネーブ便利 世界YWCAインターン記③

～評価の夏～

こちらに来て早くも約半年が経ちました。そこで先日、スーパーバイザーとの、半期評価ミーティングがありました。これに先立ち、自己評価表を作成し、客観的に自分を見直してみました。評価表を埋めるまでは英語で仕事をするとこの新し環境で、どれだけの方ができたのか不安ではあったのですが一通り埋めてみると、結構さま

本の紹介

「脱原発への道 キリスト者の視点で考える」

発行：日本キリスト教協議会 平和・核問題委員会
TEL03-3203-0372
ncc-j@jca.apc.org
頒価：300円(送料別)



55ページという中で、核の歴史と日本の核政策の現状を、国際情勢とからめながら、分かりやすく具体的に語っている1冊。読み終わると、何かしなくちゃと思わせられるのは、弱者の立場、とりわけこれからは生まれてくる子どもたちの思いにまで想像力を働かせ、人類の進むべき方向を示しているからだろう。「小欲知足」の道を歩み、原動力にブレーキをかけ、決してあきらめないで、持続可能な社会と平和な世界を創ろうと呼びかけている。(J・I)

- 二勢力ありがどうぞさま
賛助費(以下敬称略)
大倉善美子 栗原佐子 甲子雅代
武藤ハツエ 吉行あり 甲子敦江
小島野津子 白井裕子 夕路子
大村恵子 原美志恵 片岡恵子
片山恵 布村美弥子 天野沙千
川上直子 平岡千代子 三浦恵子
堀江直子 和田千鶴子 萩原博子
渡辺文子 北垣寿子 森繁貴知子

- 一般寄付
酒井真紀子
オリフの本堂
パレスチナYWCA
世界YWCA賛助費
大里喜美子 江副恵子
田中美智子 小室京子 武田重代
甲府YWCA 浦和YWCA 訓練
YWCA

魂の赴く道

実生律子

自民党「新憲法草案」には「自衛軍」「軍事裁判所設置」が明記され、また教育の現場ではすでに統制が始まり、改憲のための「国民投票法案」が制定されようとしている。更に日米両政府は在日米軍再編に最終合意した。これが実行に移されると在日米軍基地の機能強化・恒久化は必至であり、繰り返し起きている基地周辺での女性に対する暴力や騒音・事故などの増大も明らかである。大きな力によって、小さな人の命が奪われその叫びも聞かれないこの現実を前にする時、国家体制に迎合しつつ「私の平安」を享受し続ける自分の姿が見え隠れる。

私の属する教会では、高里純代さん(「基地・軍隊を許さない行動する女たちの会」共同代表・沖縄YWCA会)の講演に触発されて「沖縄の会」が誕生し6年になる。毎月勉強会を重ね、その瞬間にも闘い続けている人たちがいることを決して忘れることがないようにと祈る。中には辺野古の海上新基地阻止活動へと押し出された人もいる。そのグループでさえ「7・7シンポジウム」(07年参議院選挙で、平和憲法を守り抜くことを最優先する平和共同候補の実現を目指す集会)の呼びかけ人となることを提案したところ引き受けた人は半分以下であった。実にこれも一つの現実である。

自分の日常のありようが、エレミヤ書6章16節に思いを馳せた詩人の歌「道」に近づくものであると切に祈る。すべての人に道が開かれる 何本かの道が 高い道と低い道が開かれる 卑しい魂は低い道を登り 残りのものがそこそこに漂う 高き道と低い道が開かれる 残りのものがそこそこに漂う 高き道と低い道が開かれる 残りのものがそこそこに漂う 高き道と低い道が開かれる 残りのものがそこそこに漂う

日本YWCA特刊(第1巻)

特集

軍隊は住民を守らない

ブッシュ米政権は、東西冷戦型だった駐留米軍の配置をテロなど「新たな脅威」に対応する陣容に整え直すとして、世界的規模での米軍再編を進めています。これを受けて、小泉内閣は、戦後最大規模といわれる「在日米軍再編計画」を米国との間で合意しました。再編対象となる地元の意向を無視し、基地強化につながる動きです。

「米軍再編」よりも たしかな安全保障をめざそう

田巻一彦（ピースデポ理事）



沖縄での監視行動 (撮影・大城美代子) 写真上・頭上を飛ぶF15戦闘機 写真下・嘉手納基地側の通称「安保の見える丘」で

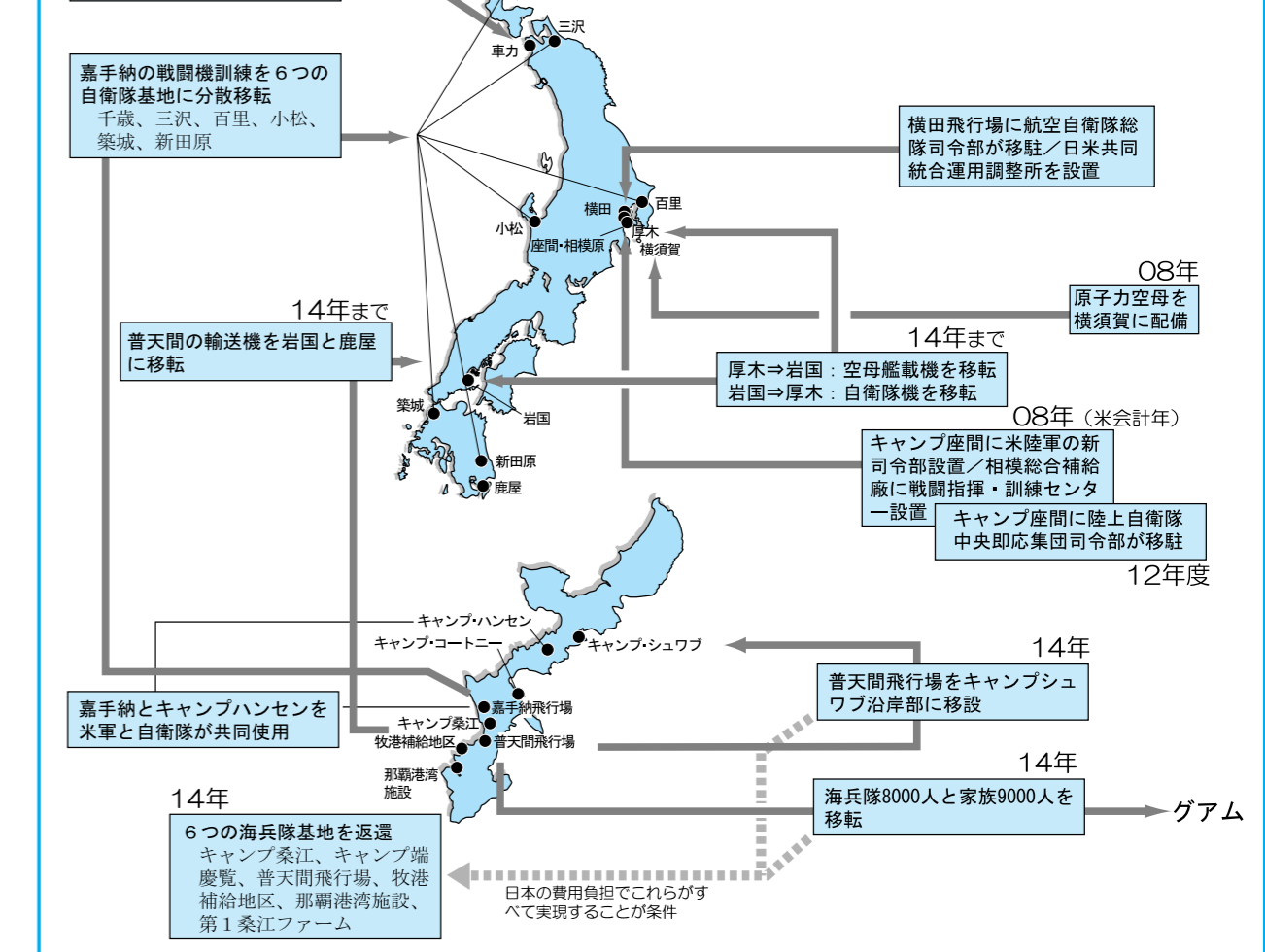
5月1日、日本政府は、在日米軍再編協議に関する「最終合意」と「ロードマップ」を発表した。まず、沖縄の「負担の軽減」について5つのことが合意された。①2014年までに普天間飛行場(宮野湾市)を返還する。代替施設をキャンプシュワブ(名護市)の沿岸部に建設することが条件。②海兵隊を、同じく14年までにグアムに移転する。移転規模は重軍8000人と家族9000人。費用の59%にあたる約7000億円は日本が負担する。③以上の①②が実現すれば本島南部の6つの海兵隊基地を返還する。④嘉手納基地とキャンプハンセンをそれぞれ航空・陸上自衛隊と米軍が共同使用する。⑤嘉手納の戦闘機訓練を本土の自衛隊基地に分散移転する。

①③のカギは、日本のお金だ。日本がグアム移転費用と普天間代替施設の建設費用を負担しない限り、グアムには行かないし普天間も返還しない。米国は「負担軽減」を人質に、新しい基地と太平洋の海兵隊の再配置を、日本のお金で手に入れる。

本土の基地も大きく変わる。①厚木(神奈川県)の空母艦載機の訓練を岩国(山口県)に移転する。岩国にとっては途方もない「負担増」だ。②キャンプ座間(神奈川県)での陸軍司令部の改編。③横田(東京都)には、日米共同運用調整所が置かれる。ミサイル防衛のためである。④車力(青森県)には、ミサイル防衛のための「Xバンドレーダー」が置かれる。追尾するのは日本を攻撃する「ミサイル」ではない。車力はアジアのどこかの国から米国の目指して飛んでいくミサイルのコースのどく傍にある。そして「再編協議」とは別格で協議されてきた重大かつ危険な計画として、⑤

横須賀への原子力空母の配備(08年)がある。

このように、今回の再編合意は、「負担の軽減」を大義名分としながら、その実、米国の戦略的要求にそった「基地強化」の合意と呼ぶべきだろう。そこに自衛隊と米軍の協力の深化という付加価値までがつく。地域からは反発の声があがっている。岩国市民は、3月12日の住民投票で「受け入れ反対」の意思をはっきり示したし、神奈川県



在日米軍再編合意の要点 (作図：田巻一彦)
07年3月運用開始 航空自衛隊車力分屯地にミサイル防衛用Xバンドレーダーを設置
08年 原子力空母を横須賀に配備
08年(米会計年) キャンプ座間に米陸軍の司令部設置/相模総合補給廠に戦闘指揮・訓練センター設置
12年度 キャンプ座間に陸上自衛隊中央即応集団司令部が移駐
14年 厚木⇒岩国:空母艦載機を移転 岩国⇒厚木:自衛隊機を移転
14年 普天間の輸送機を岩国と鹿屋に移転
14年 キャンプ座間に米陸軍の司令部設置/相模総合補給廠に戦闘指揮・訓練センター設置
14年 普天間飛行場をキャンプシュワブ沿岸部に移設
14年 海兵隊8000人と家族9000人を移転
14年 6つの海兵隊基地を返還 キャンプ桑江、キャンプ端慶覧、普天間飛行場、牧港補給地区、那覇港湾施設、第1桑江ファーム
日本の費用負担でこれらがすべて実現することが条件

「無関心」「他人事」を問う

「沖縄の負担軽減」の嘘

「在沖米軍基地再編は沖縄の負担軽減」との政府発表に唖然とし、憤り胸が張り裂ける思いです。実際は米軍基地の強化・要塞化を図るものでしかありません。人口密集地にあり古くなった基地を、最新鋭でかつ飛行機で2時間、戦闘機だともっと速い、通勤距離です。しかも、米軍が負担するといふ、米軍に至れりくせりの計画です。

負担軽減の最大の目玉とされる「海兵隊員8千人のグアム移転」。在沖海兵隊員の人数は、日本政府の説明では「米国防省から1万8千人と聞いている」

「心を尽くし、精神を尽くし、力を尽くし、思いを尽くし、あなたの神である主を愛しなさい。また、隣人を自分のように愛しなさい」 (ルカによる福音書10章27節)



「心を尽くし、精神を尽くし、力を尽くし、思いを尽くし、あなたの神である主を愛しなさい。また、隣人を自分のように愛しなさい」 (ルカによる福音書10章27節)

1991年私はタイから帰国しました。当時京都YWCAのAPT (Asian People Together) が、外国人のための電話相談を始めた頃でした。私はそのメンバーになり、支援の現場でかかっているママ殺し事件などでした。交通事故で腕を骨折した女性、タイ人夫の暴力で避難した女性が、夫が在留資格の手続きをしないためにオーパスティになり、シエスターにいたるにもかかわらず警察に逮捕される事件がおきました。彼女

その後、「女性の家HELP」(日本キリスト教婦人矯風会)のディレクターとして、夫からの暴力(DV)で逃げてきた女性と子ども、及び人身売買の被害者となった女性たちを支援してきました。最近、外国籍の人に対して入管や警察の厳しい対応がなされています。日本人夫の暴力で避難した女性が、夫が在留資格の手続きをしないためにオーパスティになり、シエスターにいたるにもかかわらず警察に逮捕される事件がおきました。彼女は犯罪者ではなく、DVの被害者です。イエスは、私たちの周りで傷つき倒れている人に対して、私たちに、あなたは隣人であったのかと問うておられます。 大津恵子 (「女性の家HELP」前ディレクター)



2001年5月。景気をよくするために、どんどん原子力発電所を作ってどんどん電気を供給しよう、というブッシュ米大統領のエネルギー政策に反対してカナダで「自主停電運動」が起こりました。この流れを受けて日本のNGOが2003年6月22日(夏至)に、「100万人のキャンドルナイト」を始めました。夏至の日の夜8時から10時まで、電気を消そうとの呼びかけに、昨年は全国で2万2716箇所の施設がライトダウン、登録イベント数は311、約664万人が参加。今年は韓国でも初めてキャンドルナイトのイベントが開催されました。ここでは札幌YWCAのキャンドルナイト・フルートコンサートを紹介します。(編集部)

キャンドルナイト・フルートコンサート in 札幌YWCA

夏至の日の前日、札幌YWCA「Y's Cafe」でキャンドルナイトが開催されました。フルートとピアノの演奏。フルートの息づかいが聞こえてくる距離で想い想いに耳を傾けました。そして、童話『むぎはたけ』の朗読。絵が見えない分、想像しながら聴く物語は、自分も絵本の中に加わるようです。ろうそくの灯りのもと、32人の人たちが集い静かな時間を共有する。それだけのことがなんて贅沢で特別なだろう…。炎のゆらぎに優しく包まれた夜でした。(山上左恵子)



4市(横浜・湘南・浦和・平塚)YWCA 沖縄デー

沖縄と神奈川を結ぶもの

戦後61年、沖縄は基地返還を訴えつづけて闘ってきたが、なぜ実現しないのでしょうか。基地問題は沖縄問題ではなく「日本の針路」そのものが問われているのに、日本国民の多くが「無関心」「他人事」としているからです。

今回の再編による辺野古への基地建設は、米軍が1966年に計っていた案と場所も形も酷似しています。40年も前です。当時、米軍はベトナム戦争で経済的にひっ迫しており、沖縄の反基地感情の高まりもあり、建設さざる状況になかったといえます。軍事は長いスパンで事が進められます。

昨年の沖縄デーでは辺野古での闘争支援を決め、4市YWCAで毎月のカンパを続けてきた。今年も、米軍再編によって神奈川も含めて日本各地の基地がアメリカの思想によって強化・固定化されようとしている。厳しい現実を考えることになった。辺野古に度々出向いて、そこから問いかげられるものをキリスト者として深く受け止める、神奈川の基地反対の運動につながる。

「世界規模の米軍再編は2001年の米国同時多発テロ後、「世界中どこでも起こりうるテロに直ちに対応するには身軽な編成に衣替えする必要がある」として進められてきた。在欧米軍は、人員を40%(4万人)として進められてきた。在欧米軍は、人員を40%(4万人)として進められてきた。在欧米軍は、人員を40%(4万人)として進められてきた。

午後のグループ討議には若者のグループができたこと何とものうれしいことであった。その中からの提案を受けて、8月26日(土)に浦和・関内・藤沢の各駅でピースアクションを行うことになった。ミニ団扇「知ってる?うちわ」には秋の国会で審議されようとしている危険な法案の名前を挙げ、ポストカードには「米軍再編の危険性」を数項目挙げて作ることにした。 平塚YWCA 三股まさ子

知ってる?

「知ってる?うちわ」は平塚YWCA会員の三股恵美子さんのデザイン。うちわの注文は横浜YWCA (担当:小阪 TEL:045-681-2903)まで。1枚40円、10枚単位でご注文ください。(送料別)